

市内南雲原の畑に“からむし”栽培

# 「NPOあんしん」が織り作業を習得

## 浴衣や帯、小物民芸品など製作

はNPO法人支援センターあんしん（市内高田町3西・本田欣二郎会長）の全面的な協力を得て、市内南雲原、川治原、川西の白倉の3ヶ所（約900坪・3反歩）で越後縮の原料である、十日町産のからむしの栽培を始めた。

（有ネオ昭和は、平成20年度に「財」にいがた産業創造機構（NICCO）」の「十日町からむしブランド確立のための機会化」による糸作り」支援事業の指定を受けて、「からむし糸」による「テーブルセンター」や「コースター」「インテリア製品」等の民芸品を「NPO法人支援センターあんしん」が担当。販売部門は「ネオ昭和」が受け持ち、製作に着手した。

21年度は、自生の「からむし糸」を使った「からむし浴衣」と「帯」の開発に



からむしの苗が植えられた南雲原台地

成功。浴衣は、従来の小紋調と異なり、夏物のきものとしても機能するような商品化をめざし、きものデザイナーの庭野政義氏によるデザインで、カラーは上越市のカラーコンサルタント宮崎朋子氏が考案したものを実用品として完成。商品化に成功している。

今月17日には上越市の料亭「宇喜世」での展示会を開催するのをはじめ、9月1日～3日まで、東京日本橋・にいがた館NICCOプラザ#2、11月20日～22日まで、京都市サラ袖愛館の各会場で、「からむし製品」を展示販売する。

また11月8日柏崎市7街道「からむし街道」で開催される同市観光交流課のイベントに全面的に協力。からむし製品を販売することになっている。

同社村山好明社長は「今後『食』の分野で「上越食育推進協議会」に加入、からむし麺・からむし茶の販売にも力を入れていきたい」と語っている。

この十日町きもの産地の中で、十日町産の「からむし」織りが、実用段階に入ることになれば、南雲原、川治原、白倉といった畑作の有力な品目として成長をとげることにもなり、福島県の昭和村から開発が進められてきた「からむし織り」きもの（浴衣）をはじめ、民芸品の商品化の分野にも普及、産地化への道が開けていくことも可能性が期待でき、十日町産地での「からむし」商品の産地化につながることを期待される。

“からむし”製品の企画販売会社、（有）ネオ昭和（市内伊達・村山好明社長）で